令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 八王子 中学校 ）　　学校番号　２４８

【様式】

学校教育目標	大志を抱け　ひとみ　輝く　八中生　～賢く　豊かに　逞しく～
目指す学校像	1　生徒・教職員ともに安全・健康・人権を尊び、自己存在感や充実感が味わえる学校 2　美化・清掃活動を通して、美しさの中で豊かな学びのできる学校 3　共に過ごす生徒と教職員が、共に自信と誇り、安心の元に活動できる学校 4　豊かな連携を通して、保護者・地域から信頼され、愛される学校

重点目標	1　自立した学習者の育成に向け、ICTや個別活動を効果的に活用した生徒個々の学びを高める授業を実践する。 2　生命と人権尊重を重視し、自主的・主体的・協働的な活動を通して、生徒が自信をもち、自己肯定感を高める。 3　生徒自ら地域と連携し、地域社会に貢献する意識を高める。 4　生徒の安心・安全を確保した施設・設備を充実する。 5　教職員の働きやすさ・働きがいに対する意識を向上させ、健康を維持する。

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価（実施日　令和８年２月１２日）：学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上に関する取組	【現状】 ○全国学力・学習状況調査では、国語は前年度と比較し、市平均との差が２ポイント開いた。 ○生徒学校評価「授業に真剣に取り組んでいる」の肯定的評価は97.8%である。 ○教職員学校評価「生徒の実態に合わせて授業改善ができている」の肯定的評価は 96.5%だが、A 評価は 17.2%である。 【課題】 ○下位層の基礎学力の定着に向けた指導方法を工夫改善する必要がある。 ○基礎学力を土台とした表現力の育成が必要である。	・ICT の活用を含め、個々に対応した授業の推進	①スクールダッシュボード等を活用し、生徒個々の意欲度・理解度を把握して個々に対応した授業を実施する。 ②基礎・基本の定着のため、授業内や宿題等において、スタディサプリ等を広く活用する。	①スクールダッシュボード授業アンケートやスタディサプリを活用したか。 ②教職員評価「基礎基本の定着を図る指導」が昨年度よりも上回ったか。 ③生徒評価「予習や復習の取組」が昨年度よりも上回ったか。	①スタディサプリを長期休業の宿題等に活用したり、授業最初の反復練習に活用したりする教科も増え、「基礎基本の定着を図る指導」のA評価が5.5ポイント増加した。 ②「予習や復習の取組」の肯定的評価が 2.7 ポイント減少した。特に２年生は部活動等もあり、家庭学習が定着せず、基礎学力向上につなげることができなかった。 ③個々の理解度に応じた授業展開を意識した教員も増え、授業プリントや指導方法に工夫を加えたことで、「指導力が高まっているか」のA評価が8.2ポイント増加した。	B	①基礎学力の定着に関する項目については A 評価も増加したが、個々の理解度に合せた指導方法に苦戦した教員もおり、今後、他校の事例を参考にしながら研修を進め、学校全体で取り組む必要がある。 ②家庭学習の取組について、iPad の活用や家庭学習の取組方法について生徒自身だけではなく、保護者にも保護者会等で周知し、家庭と連携を図る必要がある。	・社会での役割をよく考えて発言する・行動するための基礎学力は大切。子どもたちの好奇心が芽生える授業を工夫していただきたい。 ・個々の理解度に応じた授業の展開やプリントの工夫など指導力向上に努めている様子が伺えるが、保護者にこれらの取組の様子が伝わり切れていないのが残念。 ・家庭のバックアップが子どもの確かな実力につながるので、家庭との連携に重要性が増している。 ・長期休暇の課題が少ない教科や学年があるようで、生徒の学習意欲の差が大きいことを感じた。
		・探究的・協働的な学びを実践するための指導方法の工夫改善	①授業内において探究的・協働的な活動を増やすとともに、自分の意見を表現できる場面も多く設定する。 ②授業内外において、生徒が自ら考え、「できた」「わかった」を大切にし、対話を重視した活動を実践する。	①教職員評価「生徒の実態に合わせた授業・指導法の改善」ができたか。 ②学校図書館の利用が昨年度よりも上回ったか。 ③生徒評価「授業がわかりやすい」が昨年度よりも上回ったか。	①多くの教員が授業中の発表機会や話し合い活動を意識的に設定したことで、生徒が他者の意見を取り入れ、自分の考えを導き出せた。「生徒の実態に合わせた指導の改善」のＡ評価が 5.0 ポイント増加した。 ②朝読書の時間を十分に確保できなかったが、活動に工夫を加えたことで、貸し出し冊数は昨年度より向上した。 ③授業だけではなく、防災教育での取組等においても対話を重視し、生徒の理解を大切にしたことで、「授業がわかりやすい」の肯定的評価が 2.0 ポイント増加した。	A	①今年度は、基礎学力の向上を重視した取組を実施したが、一方で読解力の向上に向けた取組があまり推進できなかった。今後はバランスよく進め、両立していく必要がある。 ②基礎学力については少しずつ向上しているものの、全国学習状況調査等では市平均を下回る結果となり、朝学習の時間の内容を検討するなど、更なる取組が必要である。	
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	【現状】 ○生徒学校評価より、自分に自信が持てず、対人関係に不安を抱える生徒が多い。 ○生徒学校評価「先生は親身に相談に応じる」の肯定的評価は 94.8%である。 【課題】 ○心に不安を抱える生徒に対して自己肯定感を高めるための活動を継続実施する必要がある。 ○生徒指導・教育相談においてさらに組織的に対応する必要がある。	・生徒の自信を身につけるための教育活動の工夫	①基本的生活習慣を身につけるため、心を潤す４つの言葉の指導やトラブル防止の活動を継続的に実施する。 ②生徒会活動やボランティア活動等の自主的な活動をさらに多く設定する。	①生徒評価「学校生活目標を意識して生活しているか」が昨年度よりも上回ったか。 ②生徒が発表等、主体的に活動する場面を多く設定したか。	①生徒会主催のあいさつ運動やボランティア活動にもたくさんの生徒が関わることができた。１０月の学校運営協議会では生徒会本部が防災教育について地域への提案を行うなど、主体的な活動が増加した。 ②学校全体で心を潤す４つの言葉や授業規律などについて指導をしたため、「学校生活目標を意識して生活している」の肯定的評価が 1.5 ポイント増加した。	A	①生徒会活動等を更に精査して、生徒の自治活動を広げていく必要がある。 ②リーダーシップをとる生徒が徐々に増えているが、自信を持って取り組むことができる生徒の育成については全体的な底上げが必要である。「できた」という達成感を味わわせる活動を重視していく。	・ひとつひとつの丁寧な対応が積極的な生徒指導につながっていると思われる。 ・未来くるワークの生徒のあいさつがよくできるようになってきた。心を潤す４つの言葉やあいさつ運動の成果だと思う。 ・主体的な活動を通して「できた」の達成感や意識が高まり、自己肯定感がアップしたと思う。 ・目をそらさずにしっかり向き合い、丁寧な対応をお願いしたい。
		・生徒１人ひとりきめ細やかに対応する組織の充実	①生徒に目を常に向けるとともに、報告・連絡・相談・見届けを丁寧に組織的に、迅速に実施する。 ②普段から声掛け等を実施し、未然防止のための積極的指導を実施する。	①教職員評価「生徒指導・教育相談の充実を実践したか」が昨年度よりも上回ったか。 ②生徒評価「心を潤す４つの言葉ができたか」が昨年度よりも上回ったか。	①各部会ではポイントを絞った報告を実施し、対応について丁寧に検討することができたため、「報告・連絡・相談・見届けの体制」のＡ評価は 31.3 ポイント増加した。 ②教員が生徒との関わりを意識的に増やし、普段から声かけを行ったため、「心を潤す４つの言葉」においての肯定的評価が 1.1 ポイント増加した。	A	①若手教員も多いため、丁寧な対応については更なる組織的対応を行い、教員個々のスキルアップに努める必要がある。 ②心を潤す４つの言葉については、教員が積極的に実践・見本を見せることで人間関係を更に構築していく。	
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	【現状】 ○コミュニティ・スクール研究協力校となり、地域との連携について模索中である。 ○生徒学校評価「地域へのボランティア活動への参加」の肯定的評価は 30.9%であり、生徒の「ボランティアに参加する意識」はあるものの、地域への参画意識は高まっていない。 【課題】 ○積極的に地域に関わり、自ら意見を発信できる生徒を育成する必要がある。	・生徒の社会貢献意識の育成に向けた地域との連携	①生徒が社会参画できる地域行事を精選し、参加できる環境を設定する。 ②地域と生徒の風通しがよくなるためにあいさつ運動を充実させる。	①地域と連携したボランティア活動等に昨年度以上に取り組んだか。 ②生徒が普段から安全意識をもって行動している様子が見られたか。	①学校運営協議会を活用し、生徒が夏祭りなど地域の活動に参加したり、創立 40 周年関係など学校の行事に地域が参加したりするなど、連携できる機会を増加させた。 ②生徒のあいさつ運動を毎日実施する一方、小・中合同あいさつ運動では初の試みとして与野西北小の児童が中学校に訪問して実施し、意識を高めることができた。	A	①本年度の取組を来年度以降も継続して実施していく必要がある。 ②教員・保護者のあいさつ運動を無理のない範囲で活発化させていき、生徒だけではなく、学校全体で雰囲気を盛り上げていく必要がある。	・防災教育や学校周辺の環境緑化ボランティアなどが八王子中学校の伝統となって受け継がれていることに感謝している。 ・生徒が一丸となり、掲げたテーマに向かう姿勢は見事だった。 ・与野西北小や地域と連携する具体的な取組があり、その様子を生徒・保護者に伝えることで理解や意識の変化につながっていくと思う。簡単ではないが次年度以降も継続して取り組んでほしい。
		・学校・地域が連携するための情報の発信と共有	①生徒が自ら考えた意見を学校運営協議会等で発言する機会を設定する。 ②学校の活動の様子を HP 等で情報提供するとともに、地域の活動を、学校内掲示板を活用して情報を共有する。	①学校運営協議会に生徒が参加する機会を設定したか。 ②HP の更新数及びアクセス数が昨年度以上となっているか。 ③保護者評価「学校に関する情報を伝えている」が昨年度よりも上回ったか。	①生徒会本部が、夏季休業中の防災講座を取材し、自ら考えた意見をまとめ、１０月の学校運営協議会で工夫点等について発表・提言を行った。 ②学校だよりや HP で生徒の活動の様子を掲載するとともに、職員玄関付近にコミュニティ・スクール掲示板を設置し、学校活動についての情報を公開した。その結果、「学校に関する情報を伝えている」の A 評価は 7.1 ポイント増加した。	A	①生徒が地域の取組に対して理解をさらに深め、防災教育に限らず、中学生の地域貢献に関する意見を毎年継続して提案できるように機会を設定していく必要がある。 ②HP については、保護者に限らず地域や他校からも参考にしてもらえるように内容を充実させていく。また、つぼみの日などを活用し、地域児童にも紹介して中１ギャップの不安解消の一端とする。	
4 教育環境の整備に関する取組	【現状】 ○生徒・教職員が校舎をていねいに使用しており、破損等は比較的少ないものの、校舎の老朽化は明らかに進んでいる。 ○校内緑化等において PTA の協力が得られている。 【課題】 ○生徒が安心して活動できるよう施設・設備を定期的に点検する必要がある。 ○校内課題研究である「防災教育」に関する環境整備を進めていく必要がある。	・生徒の安心・安全を確保する施設・設備の充実	①定期的な点検を実施し、大きな修繕については、学校施設管理課等へ迅速に修繕依頼を行う。 ②個人情報等物品の管理徹底のため、必要な棚を設置し、整理する。	①安全点検等、修繕・改善個所に対して迅速に対応できたか。 ②教職員評価「公用備品の管理はできたか」が昨年度よりも上回ったか。	①記録の猛暑もあり、夏場はエアコンの不具合が多く、教育委員会への連絡など、迅速な対応を行った。 ②修繕箇所については、用務員と密に連絡を取り、修繕を依頼し、迅速な対応をとることができた。 ③校内の整備については予定通り進まず、３学期に持ち越している。そのため、教職員評価「校務備品の管理」のＡ評価は 11.3 ポイント減少した。	B	①修繕等の施設設備維持管理については、予算を考慮し、来年度当初に計画を立てていく必要がある。 ②校内備品の整理については、現在の配置を見直し、効率よく対応できるようにする。あわせて、教職員の時間外勤務時間の削減につながるようにしていく。	・自分たちの学ぶ場や住んでいる地域をきれいに保つ意識は心の安定・安心につながっている。 ・校舎は老朽化が進んでいても、校舎内に生徒が作成した掲示物がきれいに掲示されている。校舎内がきれいに清掃され、また、花壇やプランターの草花の手入れもされ、環境整備が行き届いている。 ・地域の方向けの AED 講習を PTA だけではなく、生徒と一緒に行うのもよいのではないか。
		・PTA や後援会との連携を含めた学習や生活環境の充実	①地域と連携し、防災教育に関連した施設・設備・備品を再点検、整備する。 ②生徒の心の成長に沿う環境の構築について、地域・保護者の目線から意見をいただき、実施に結び付ける。	①防災関係で必要な施設・設備・備品を学校運営協議会等で洗い出し、整備することができたか。 ②校内緑化活動等、保護者・地域の方から改善点を得ることができたか。	①学校運営協議会において、校内緑化活動の取組について意見を吸い上げた。１１月の緑化ボランティアでは、生徒と地域の方が混在した作業グループを編成し、お互い顔見知りになることで、防災教育にもつなげた。 ②防災関係の取組については地域との連携を深めることができたが、物品整備等については、課題が残った。	B	①生徒が学校運営協議会で提案した学校防災マップについて、地域の担当者と作成し、学校内に配架する。あわせて必要な備品を洗い出し、物品の管理に繋げていく。 ②運営委員会に限らず、緑化活動に参加していただいた地域の方から意見や改善点をその場で吸い上げる。	
5 教職員のキャリア形成に関する取組	【現状】 ○生徒との関わりをていねいに行う教職員が多い。 ○業務にていねいに取り組んでいる反面、教職員の体調管理が心配である。 【課題】 ○業務の対応については、１人で抱え込まないように組織的に対応する必要がある。 ○若手教員の育成を含め、協力体制が充実している雰囲気の良い学校づくりを進めていく必要がある。	・教職員の専門性・指導力向上のための研修の奨励	①教員が生徒と携われる時間を生み出し、業務の軽減に向けた研修・話し合いの場を設定する。 ②教員の個々につけさせたい力を確認し、個々にあった研修を推奨する。	①教職員評価「状況に応じて行事の精選等がされているか」が昨年度よりも上回ったか。 ②各教員が設定した研修を確実に実施・理解し業務に生かすことができたか。	①隔週金曜日を５時間授業に、またプリント配信ソフトを導入するなど ICT 活用を進めたことで、教員が生徒と携われる時間を生み出した。行事の精選による業務時間の削減については大幅な改革ができず、「行事の精選等」の肯定的評価は 8.1 ポイント減少した。 ②各教員が、ICT による業務改善で生み出した時間を自己研鑽の時間に充てた。多くの教員が自分の伸ばしたい分野についての研修動画を視聴し、業務に活かしていた。	B	①学校行事については、企画委員会および担当で協議し、削減 or 縮小について、再度検討していく必要がある。 ②各教員の自己研鑽の課題を面談等でこまめに確認するとともに、管理職からも更なる助言を行い、各教員の個々の力量を向上させ、学校全体のレベルアップにつなげていく。	・先生同士の授業参観を実施し、効果的な授業の進め方を研究・工夫してほしい。 ・教員が生き生きと働くための心と体のバランスを考えたメンタルヘルスも大切かと思う。 ・校務分掌や勤務時間等の調整は大変難しいが、軽重をつける、教員も主体的に考えるなどして、前向きに取り組んでいただきたい。 ・先生方の健康を考え、保護者対応を PTA の保護者同士で解決できるものは減らせるとよい。
		・教職員の健康保持増進に向けた業務改善の工夫	①若手教員を中心に ToDo リストを活用し、業務の効率化に結び付ける。 ②個人に限らず、学年等の負担度を声掛け等により定期的に把握し、軽減できるよう指導・助言する。	①教職員が業務効率化を意識して取り組み、時間外在校時間を減少させ、健康を維持できたか。 ②「チーム八王子」を意識し、協力体制等を向上させることができたか。	①時間外勤務 45 時間以上の月別平均人数は１１月末現在で 5.5 人となり、大幅に減少した。意識的に退勤時間を早めたり、年休を取得したりする教員も増え、精神的にも健康を維持することができた。 ②生徒指導や教育相談など、担当主任や学年主任を中心に組織で取り組む雰囲気が創り出せたが、同時期に行事や研究発表等が重なり、業務負担が一定職員に集中した。	B	①ICT の有効性を検討し、業務に取り入れていく。また、各教員の業務内容を ToDo リストを活用し、各自で精選させるとともに、学校全体としても校務分掌等を精選し、業務の負担がかからないようにする。 ②職員の健康状態を日頃より把握し、精神的ケアを含めた学校全体の体調管理を行っていく。	